

とちぎ夢大地応援団に参加して

三浦四郎記

2011年10月8日(土)「とちぎ夢大地応援団：那須烏山大木須地区」での蕎麦刈と休耕田の草刈の活動に参加しました。

昨年、一昨年は那須町芦野地区での活動に参加してきましたが、今年は地震の影響で中止になったことから、那須烏山市大木須での参加となりました。

大木須は、那須烏山の街を抜けて、那珂川に架かる烏山大橋を渡り、道なりに山を抜けたところにあります。大木須はオオムラサキの保全活動やホテルの里として知られ、様々な村おこしの活動を行っています。

集合場所はオオムラサキ公園で大木須地区のさまざまな活動の拠点となっています。

当協会からは、近藤さん、塩山さん、安場さん、中荃さん、三浦が参加し、中荃さんは主催者側の一人として進行の労を取られました。

今回の応援団には、高校生を含む夢大地応援団のメンバー、地元の方々、総勢100名近くの参加者がありました。

特に夢大地応援団カレッジメンバーの真岡北稜高校の生徒達は7月に引き続いての参加ということでした。

9時になり、挨拶や説明後、塩山さんは周辺地域の草刈班として、残りの我々3名は高校生らと共に蕎麦刈り班として公園の脇の蕎麦畑にいざ出陣です。

蕎麦刈作業は鎌での手刈りです。鎌を持つのは昨年11月の芦野以来です。芦野では斜面でしたので、さほどに負担ではなかったのですが、今回は完全に腰を折り曲げての作業ですから、なかなかにしんどいものです。隣でやっている地元の方はやっぱり手際がよくスピードが違いました。

刈り取りが終わったら、次はわらで束を縛り、これを天日干のために立てかけていきます。これで、作業終了、途中の休憩を除けばたかだか90分程度の作業でしたが、木陰が気持ちいいほどの晴天であったこともありグロッキー気味。

刈り取ったそばは2週間ぐらい天日干しされた後に脱穀され、11月27日(日)に行なわれる“おおぎす新そばまつり”に使われるということでした。

蕎麦に関するうんちくはインターネットで沢山でていますので、ここでは省略します。

作業終了後は、地元の方と真岡北稜の女子生徒さんが作ってくれた、心づくしの豚汁とおにぎりを美味しくいただきました。また、お土産に当地の新米を頂戴しました。

この夢大地応援団の活動の3つの目標の一つに、「ボランティアと地域住民が協力し合えるパートナーシップの構築」とありますが、芦野での参加も含めて、その通りだと実感できました。

謳い文句だけでなく、互いに汗をかくということが、パートナーシップ構築の原点のように思いました。

大木須の皆様、ありがとうございました。

帰路に予定していた、大木須の近くの“やまびこの湯からすやま”は、地震による影響で休業中ということで、高根沢の“元気あっぷむら”の温泉に浸かり、ぐったりと疲れた身体を癒しました。

それにしても、その後3日間ほど腰の痛みがとれず、つくづく普段の運動不足を痛感しました。

夢大地応援団那須烏山市大木須地区参加写真

		
<p>会場となったオオムラサキ公園</p>	<p>木須川を愛する会会長挨拶</p>	<p>那須烏山市長挨拶</p>
		
<p>蕎麦畑</p>	<p>蕎麦畑</p>	<p>蕎麦刈り作業</p>
		
<p>作業をひと休み</p>	<p>作業をひと休み</p>	<p>刈った蕎麦を乾燥のために並べる作業</p>
<p>2011.10.8</p> 		
<p>蕎麦畑がこんなになりました</p>	<p>会場にあった二宮金次郎像</p>	<p>近くに咲いていたコスモス</p>